



▲豊平歩っ歩の会ウォーキング大会(9/30)
秋のそよ風に吹かれながら。



▲リンゴの収穫
今年も実った、リンゴ並木の真つ赤なりんご。



▼交通安全街頭啓発(9/22)
みんなの願い。交通事故ゼロ!!



▲豊平区防災訓練(9/5)
訓練での真剣なまなざし。



健康セミナー(10/9)▶
笑顔が健康の秘訣。



ただまもる
第45回 「玉田 守 殉職之碑」の巻

～北の空に散った十九歳の命～

福住一条六丁目の福住中央通の道路脇に、「故陸軍軍曹玉田守殉職之地」と刻まれた立派な石碑が建っています。これは、戦争の痕跡や遺物が他都市と比較して少ない札幌市にあって、戦争の悲惨さを物語るものの一つです。

この碑にまつられている玉田守さんは、山口県大島郡の出身で、一九三八(昭和一三)年十月に、陸軍少年飛行兵第七期生として東京陸軍航空学校に入校しました。三年間の教育課程を修了した後、飛行第一三戦隊に配属となり、一九四二(昭和一七)年五月に、第二中隊の戦闘機乗員として当時の札幌飛行場に移動してきました。そして、着任直後の同年同月二十日、玉田さんは演習のため札幌飛行場を飛び立ち、現在の福住地区上空で訓練中、ほかの訓練機と接触。墜落しました。

付近にいた住民などがすぐに救助に駆け付けましたが、機体は地中深く埋もれ、尾翼がわずかに地上に出ているだけの悲惨な状況で、手の施しようがありませんでした。こうして玉田さんは一九歳という若さでこの世を去りました。



「故陸軍軍曹玉田守殉職之地」と刻まれた石碑。

事故の二カ月後、墜落地点では、地主や在郷軍人会により建立された慰霊碑の除幕式と慰霊祭が盛大に行われました。式典には、北部軍司令官、所属部隊長、戦友など軍関係者のほか、町長、部落会、青年団など地域住民も数多く参列しました。また、上空からは飛行機による戦友たちの空中参列が行われ、冥福を祈り花束が投下されました。

その後も、慰霊祭は、福住神社の祭典に併せて、五十年祭まで行われました。また、没後六十年以上経過した今日でも、地域住民と山口県の玉田さんの遺族との親交は続いています。

当時、見上げるほどの高さだった碑は、道路整備のたびに地面が高くなり今や1メートル近く埋められた状態になっています。しかし、今後も、この碑は、戦争で失った命の尊さを、次世代に伝えるものとして、守られていくことでしよう。